

切り絵・貼り絵作家 井上あき子

—人物像から寄贈作品紹介まで—

黒木 祐香

はじめに

井上あき子（昭和一九年（一九四四）—）は、昭和の後期から平成にかけて活躍した切り絵・貼り絵作家である。コマーシャルの絵付けや昭和五年から放映されたテレビ番組「裸の大將放浪記」の劇中画を担当するなど、中央で活躍する一方、神岡町で長年、「親子はり絵教室」の講師を務めるなど、故郷への愛情を抱き続けている人物である。

平成三〇年度に飛騨市へ作品の寄贈のお話をいただき、飛騨市美術館での展覧会を経て、寄贈の手続きを進めてきた。この機会に作家「井上あき子」の人物像や、今回飛騨市に寄贈された作品群を、どんな思いで制作したのか、関係者への聞き取りや新聞記事などを通して考察する。病気による影響で彼女自身への聞き取りが難しく、特に中央で活躍した際の様子は聞き取りが未着手のため、情報に著しく欠けている。また作品についての文献調査は、彼女を長年取材し、今回の寄贈作品に含まれている、「飛騨百一景」シリーズを連載した岐阜新聞記事に限定しているため、他の視点を得るには不十分である。部分的な報告となることを初めにお断りしておきたい。なお文章中、「貼り絵」について、引用箇所はそのままの表現を使用したため「張り絵」「はり絵」という異なる表現も用いている。加えて、「新聞記事」については岐阜新聞の記事を指している。

一 夢を追い求めた「井上あき子」とその活動

井上あき子は、岐阜県吉城郡阿曾布村（現飛騨市神岡町）出身で、五人兄弟の二女である。幼い頃より絵を描き、小学校の時は、算数や国語などの学習ノートの空欄はすべて漫画で埋められていたという。特に当時、芸能界で活躍していた「小鳩くるみ」や「松島トモ子」などの人物画を好んで描いていた。学校のテストの解答用紙には、裏面に絵が描かれていたため、名前が無くて彼女のものであることが先生に分かったという逸話もある。

中学校を卒業後、同郷の同級生とともに、岐阜県大垣市にあった紡績会社に就職した。この時代、彼女が通った中学校では、卒業すると高校へ進学するか、紡績会社に就職するかというのが主な進路であったよう

だ。しばらくして、母親が体調を崩し、その看病のため帰郷した。その後、母親が亡くなってからは、都会への憧れ・絵の勉強への未練から、故郷を出たい気持ちが日に日に大きくなっていく。一度社会に出た経験が自信につながり、その気持ちを後押ししたとも考えられる。父親の反対はあったものの、兄嫁である義姉の支援を得て、上京した。東京オリンピックが開催された昭和三九年（一九六四）のことで、彼女は二〇歳になっていた。すぐに絵を学ぶ環境に身を置いたのではなく、東京都の町屋にあった菓子店で働き始めた。その後、仕事を転々とするが、二四歳で夢へと踏み出す一大決心をし、故郷の父へ手紙を送っている。【図1】

今日わ、

入梅期もすぎ、暑い夏になりましたが、東京では、夜中に雨をふらせております。家の方ではどうですか？ つい、この間、植えたと思った

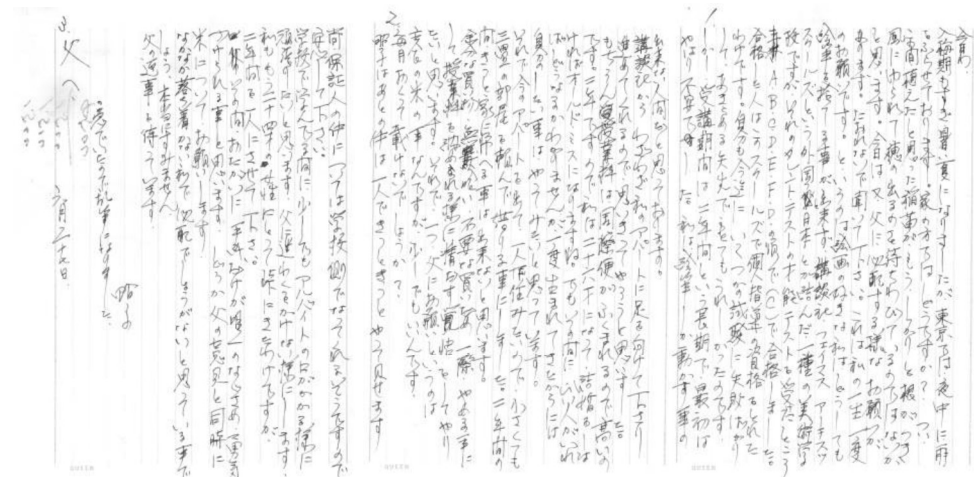


図 1 父への決心の手紙 (個人蔵)

験に失敗ばかりして、あきらめる矢先で、とてもうれしかったのです。しかし、受講期間は二年間という長期で、最初はやはり不安でした。私は絵筆しか動かす事の出来ない人間だと思っております。講談社からわざわざ私のアパートに足を向けて下さり進めてくれるので、思い

稲苗が、もう、しっかりと根

が付き風にゆられて穂の出るのを待ちわびているのではないかと思います。今日は、又、父に、心配する様なお願いがあります。たおれないで

聞いて下さい。これは私の一生一度のお願いです。と、いうのは絵画の好きな私はどうしても絵筆を捨てる事が出来ず、講談社、フェイマスアーチスツ スクールズと

いう外国と日本とが結んだ、一種の美術学校ですが、そのタレント・テストの才能テストを受けたところ、A・B・C・D・E・F・Gの順で(c)で合格しました。合格した人はこのスクールズで個人指導の資格をとれたわけ

です。自分も今迄にいくつかの試

きつてやろうと思いました。

もちろん授業料は、国際便がふくまれるので高いのです。二年ですのでも私は二十六才になって、結婚をしなければオールド・ミスになりますね。でもその間に、いい人がいればどうなるかわかりませんが、一度生まれてきたからには自分のしたい事はやってみたいと思っています。

それで今のアパートを出て、一人で住みたいので、小さくても三畳の部屋を頼んで借りる事にしました。二年間の余分な買い物・無駄喰い、不要な買いだめ一際、やめる事にして授業料を納め入れる様に精たす覚悟をしてやりたいと思います。それで、一つ、父にお願いというのは主食の米の事なんです、少しでもいいんです、毎月おくって戴けないでしょうか？

昭子とはあの件は一人できつときつとやって見せます

尚、保証人の件については学校側でなってくれるそうですので安心してください。

学校で学んでる間に、少しでもアルバイトの口がかかる様に頑張りたいと思います、父に迷わくをかけない様にします、私ももう二十四才の女性にとって峠にきたわけですが、二年間を一人にさせて下さい。その間、おたがいに手紙だけが唯一のなぐさめ、勇気づけられる事と思います、どうか父の意見と同時に米について、お願いします。

なかなか落ち着かない私で心配でしようがないと思っっている事でしよう、本当にすみません。

父の返事を待っています。

昭子

急いでいたので乱筆になりました。

父へ、

六月二十七日

この手紙には、最後の「急いでいたので乱筆になりました」と表されているように、彼女の進るような様々な思いが記されている。予想される父の反対に対し、それでも「これは私の一生一度の願いです」と強く訴えかける思いと、テストに合格した歓喜、夢の世界に飛び込める大いなる期待。その一方で女性としての年齢と生活に対する不安。「一度生まれてきたからには自分のしたい事はやってみたい」「昭子はあとの件は一人できつときつとやって見せます」と言いながらも、「父の返事を待っています」と背中を押してもらいたい心情が交錯している。

残念ながら、この手紙に対する返事の有無については不明であるが、宣言通り、絵に関する才能を開花させ、児童書やコミーシャル関係の仕事に携わるようになった。

その後、東京でグループ展や個展を開いて切り絵モザイク作品を発表し、昭和五三、五四年（一九七八、一九七九）には米国カリフォルニア、ファーストバンク後援で個展「子供の世界」、「猫のいる風景」を長期開催^三した。その翌年から放映が開始された「裸の大將放浪記」では、劇中の貼り絵制作を担当することになる。昭和五九年（一九八四）二月には、その創作活動が広く評価され、東京創作集団日本文芸振興会が選ぶ、第四回日本文芸大賞で児童文学新人賞を受賞した^四。このときの新聞記事では、彼女を「切り絵モザイク、イラスト、漫画などのフリーの作家^四」として紹介しており、貼り絵の仕事はあまり公には出ていなかったのかもしれない。同年には、愛らしい猫と美しい草花が色鮮やかに表現された、切り絵モザイクの作品集である『夢魅猫（ゆめみねこ）』（山と



図 2 切り絵作業中のあき子（個人蔵）

溪谷社）が発刊されるなど、作家「井上あき子」が確固として確立されてきたことが分かる。

昭和六一年（一九八六）に宮本守氏と結婚するが、創作活動は衰えることはなかった。当時の制作の様子について、帰郷しても制作中の作品を持ち込み、食事もとらず、昼夜関係なく作品作りに没頭することもあったようだ。そのような生活が出来た背景には、守氏は国内外問わず赴く仕事であり、一年のほとんど家にはいられず、いわゆる主婦業をあまりしなくてもよかったということがある。また、締め切りが迫り大変な時は、自身や夫の親族等からの、作品制作への手助けもあったなど、周りからの理解・協力を得られたことにあったようだ。

作品制作方法は、色紙を細かくちぎり、皿に糊を入れておいて溶かして、ちぎったものに糊をつけて貼り、つけて貼りと、とても時間がかかることであった。絵は下書きしておき、そこへ何重にも貼ったりするよ

うである。

彼女は創作活動を自分の作品作りだけに留めず、「郷土出身の芸術家に接し、子供たちに豊かな心をはぐくんでもらいたい」という神岡芸術振興部会の要請にこたえ^五、平成四年（一九九二）頃から現在の飛騨市神岡町での「親子はり絵教室」を積極的に行ってきた。また展覧会も地元で開催されるようになり、同年一月六日～八日に神岡町文化協会主催の井上あき子展^六、平成十一年（一九九九）^七・平成十三年（二〇〇一）^八にも神岡町公民館での個展が開催され、平成十二年（二〇〇九）には飛騨市合併後初となる展覧会として、「飛騨百一景」・「裸の大將放浪記」の劇中作品・「夢魅猫二〇〇一匹の鼓動」など五八点が飛騨市古川町にある飛騨市美術館で展示された^九。平成二十四年（二〇一二）にも同館で開催され、「井上あき子ちぎり絵ワールド ひだ行脚にゃんこ行脚展」と題して今年度も開催された。〔図3〕



図3 平成30年度展覧会チラシ
(提供：飛騨市教育委員会)

二 今年度開催した井上あき子展覧会

「井上あき子ちぎり絵ワールド ひだ行脚にゃんこ行脚展」は、開催期間平成三〇年四月二十八日から七月一六日、展示日数六九日間で一二六七人が来場した。飛騨市美術館を会場とし、中庭を中心に周回するように常設展示室・特別展示室・研修室のすべての会場を使用し、「清流」「民話」「原風景」「いのり」「まつり」「にゃんこ」の大きく六セクションに分け展示を行った。

展示会場に入って

最初の部屋となる、

最も広い常設展示室

〔図4〕では、「清流」

「民話」「原風景」「い

のり」「まつり」の五

セクションを展示。

その展示作品は「飛

騨百一景」の作品群

から、飛騨市を構成

する古川町・神岡

町・河合町・宮川町

の題材を中心に選択

し、来館者に一部屋

で、美しい飛騨の風

景や祭りの力強さ、恐ろしさ



図4 展示風景（常設展示室）（提供：飛騨市）

も内包された民話表現など、「飛騨百一景」の世界観を感じていただく構成を目指した。

中央の展示ケースには、井上あき子の生の声を知っていただくため、岐阜新聞で絵と文を彼女が担当した「飛騨百一景」の連載記事をパネルにして配置した。「にゃんこ」は特別展示室と研修室の二部屋を使用し、彼女が愛してやまなかった「猫」だらけの展示とした。最大の見どころでもある、研修室「図5」に展示した「く夢魅猫（ゆめみねこ）二〇



図 5 展示風景（研修室）（提供：飛騨市）

〇一匹の鼓動」は、一枚の大きさが一九四〇×一六〇〇（ミリ）ほどの板材を一八枚使って表現した大作で、四角い部屋の約三面を絵で囲んでも入りきらず、結果二枚を除いた形で設置することとなった。また、期間中には、地元の貼り絵サークルの講師の方に依頼して、和紙の貼り絵を体験してもらうワークショップを三回に分けて開催した。〔図6〕



図 6 貼り絵ワークショップ（提供：飛騨市教育委員会）

三 寄贈作品の制作理由と制作年代推定

今回飛騨市への寄贈された作品の大部分を占めているのが、岐阜新聞

で連載された「飛驒百一景」シリーズである。飛驒の風土等を二〇一点の貼り絵として表現した作品で、彼女が「山下画伯が全国を行脚して、そこに生きる人や風景を目の当たりにして折々の心情を作品にしていたように、私もふるさとを作品にしたい^五」と語っているように、制作を決意したきっかけは、劇中画を担当したテレビドラマ「裸の大將放浪記」の主人公山下清の作風に影響を受けてのことであつたようである。目標とした山下清の貼り絵制作について、清の甥である山下浩氏は次のように述べている。

テレビドラマの影響で絵を描きながら放浪をしていたと思われているが、実際は旅先でほとんど絵を描いていない。旅先で見た風物を自分の心に焼きつけ、数ヶ月間、時には数年間の放浪生活から帰宅した後、驚異的な記憶力により自分のイメージとして再現していたのである。しかも、山下清の心のフィルターを通したイメージは、実物の風物より色鮮やかな画像となり、それが独特の貼絵となつていったのである^{一〇}。

彼女は、夫や親戚・知り合いに依頼して車を出してもらい、実際に飛驒の風景を確認してから、飛驒から遠く離れた自宅に戻つて制作活動を進めていたようである。一方で、山下清の活動だけに感化されて、制作していったわけではないことが、ある展覧会のチラシで知ることができると。平成一五年（二〇〇三）の一〇月七日から一三日にかけて、アクテイブG二階 TAKUMI ミュージアム（岐阜市）にて財団法人岐阜県産業文化振興事業団主催の、「井上あき子貼り絵展くふるさと賛歌」が開催された^二。そのチラシの裏面には「ノスタルジア（望郷）」と題して、

「ふるさと」に対する彼女の思いや決意が次のように記されている。

人生の過半数を生きてきた私は、改めて産まれ育つた「ふるさと」を振り返つて見た。外への憧れが強く、旅立つたのは四〇年前。もし、そのまま生地に居続けていたなら、自然の色、音、空気の価値観などわからぬまま、一生を終えたことだろう。ビルの建ち並ぶ都会から見る空は小さく、切れ目のない雑音の中では小鳥の声さえ聞きとれない。何を求めて「ふるさと」を出たのか、自問自答する日々が多くなつた。

それを機に、外へ出たから忘れてはならない「ふるさと」の美を、モノクロからカラーにして残そうと一大決心した。時間のある限り足を延ばし、映り変わる風景をスケッチ、無我夢中の一五年間だつた。四季折々の色、喜怒哀楽の音、空気にも味覚がある事、一部分ではあるが知り得ることが出来た。皆それぞれに「ふるさと」を持つていてほしい。一つでもいい、心の中に色褪せない風景を忘れないでほしい。今、私達にできること、現在の生活から昔に戻すのは不可能、せめて、生活の基礎の流れを語部として伝えていくしかない。口下手な自分は、それを作品にして『画法』で伝えていく事にした。今後毎年配者から郷里の歴史をたくさん聞こうと思つている^三。

平成一五年（二〇〇三）からちょうど一五年前ではないが、平成四年（一九九二）頃からは故郷の神岡町に絵を寄贈^六したり、「親子はり絵教室」を始めたりなど、その活動から「ふるさと」との関わりが深くなつていくことが分かる。また、「飛驒百一景」の制作を開始したのもこのときからである。

「飛驒百一景」は「仕事」として制作していないということも特徴の

一つである。守氏・同級生の和仁勝子氏・当時連載を担当されていた記者の方に、これは仕事であつたのか問い合わせたが、三者とも「仕事」として作っていたわけではないという回答で一致している。新聞の連載に関しては、新聞社側からの依頼というよりも、彼女からの希望であつた面が強かつたようである。

また、「飛驒百一景」の中でも、平成九年から平成十一年にかけて制作した「飛驒の民話（伝説）」のシリーズは、実際に物語の舞台となつた場所に足を運びながら^二三も、彼女の想像力によつて、物語を絵に置き変え、登場人物等を表現しており、民話（伝説）の恐ろしい部分も忠実に再現され、一種のグロテスクさも兼ね備えた作品群となっている。

この貼り絵の制作方法は「B一大のケントボード紙に色紙を指でこまめにちぎつては、水で溶いた糊（のり）で張つていく。微妙な色は白い紙を染色して作る。一作品に色紙を三百枚以上用いるという^五」とあるが、新聞記事から制作期間を抽出すると、一シリーズ二〇点をおよそ一、二年で制作していく計算になり、その期間の短さに驚く。また、「飛驒百一景」については、題名や制作時期が不確かなものがあつたが、新聞記事を確認し、整理することができた。「表1」「飛驒点々累々古里賛歌」シリーズの「宇津江四十八滝」は寄贈作品中に含まれていないことも確認できた。

「飛驒百一景」以外の寄贈作品「表2」は、題名が不明であつたり、不確定であるものもある。新聞記事に「馬」をテーマにした個展を開催予定^四とあつたが、寄贈された作品の中にある作成中の馬の絵と関わりがあるかは現時点で不明である。また、「高原川の花火」など、過去の展覧会新聞記事で、「飛驒百一景」の作品として紹介されていたこともあつた^九が、基本的に新聞連載作品一〇一点以外の作品については、シ

リーズ以外の作品として捉えた。（新聞記事に「番外編の長良川花火など花火の絵三点^七」を個展に出品しているとあるが同じものかは不明）また、昭和六一年（一九八六）の現代児童画展入賞の作品名が、猫をモチーフにした貼り絵作品「みつどない」と（八十号）^一であるが、寄贈作品の中にある同名作品と同じものであるかは現段階で不明である。

おわりに

今回飛驒市が寄贈を受けた作品群は、テレビドラマの劇中画を担当し、その技量を身につけて取り組んだ集大成作品であり、夢を追いかけて神岡町を出た彼女が、それを叶えた充足感とともに、忘れかけていた色鮮やかなふるさとの情景を回顧し、作品として残したいという信念が詰まつたものであつた。

その作品の状態を維持したまま、後世に繋げていきたいが、貼り絵は非常に保存が難しく、『山下清作品集』の中でも、「現在、山下清の貼絵は、経年劣化によりデリケートな素材である折紙の褪色が進んでいる。もちろん、褪色が進行しないように劣化防護に努めているが、制作当時に比べると折紙の褪色は避けられない^{一〇}」とある。寄贈作品についても同様であり、額の無い小型作品の保存箱での管理や、作品群の暗室保管など保存に努めているが、接着剤の硬化やしみが経年により発生してくることが予想される。

本稿では親族から飛驒市に寄贈された井上あき子の貼り絵作品について、周辺取材や岐阜新聞記事により、制作年や作品を通して表現したかった彼女のふるさとへの思いを示した。彼女の作品・人生について紹介できたのは部分的であり、関係各所へのさらなる取材が必要であるが、今後の課題として本稿を終えたい。

謝辞

本稿の作成にあたり、井上あき子様・夫の宮本守様・親族の皆様・同級生の和仁勝子様・彼女の作品連載に関わりのある岐阜新聞の記者様から、資料や情報の提供など様々なご協力をいただきました。さらに一ヶ月ごとに製版された重量のある新聞記事の閲覧に関して、高山市図書館（煥章館）の職員の皆様には、「井上あき子」に関する記事が多く、台車で書庫と閲覧室を何往復もしていただくこととなりました。末尾ながら、厚く御礼申し上げます。

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（1）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
平成4年（1992）3月14日 「今年1月から創作を始め、高山市「陣屋前朝市」、荘川村「御母衣湖畔」、朝日村「美女高原」などが完成した^{一四}」 平成4年（1992）4月2日 「新徳高、平湯大滝なども出来上がっており^{一五}」 平成5年（1993）3月26日 「飛騨二十市町村の代表的風景を作品にした“古里賛歌シリーズ”を完成させた^{一六}」	飛騨点々累々 古里賛歌	平成5年（1993）4月2日	日和田高原（高根村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月3日	掘割のコイ（古川町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月5日	荘川桜（荘川村）	平成4年（1992）
		平成5年（1993）4月7日	平湯大滝（上宝村）	平成4年（1992）
		平成5年（1993）4月8日	寒干し大根（神岡町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月12日	和紙の手すき（河合村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月13日	朝市（高山市）	平成4年（1992）
		平成5年（1993）4月15日	美女ヶ池（朝日村）	平成4年（1992）
		平成5年（1993）4月16日	岩蔭遺跡（金山町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月20日	禅昌寺（萩原町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月21日	合掌集落（白川村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月22日	乗鞍スカイライン（丹生川村）	平成4年（1992）
		平成5年（1993）4月23日	臥龍桜（宮村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月24日	巖立（小坂町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月27日	馬瀬川のアユ釣り（馬瀬川）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月28日	宇津江四十八滝（国府町） ※寄贈作品外	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）4月30日	せせらぎ街道（清見村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）5月1日	屏風岩（下呂町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
		平成5年（1993）5月7日	女男滝（久々野町）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（2）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
		平成5年（1993）5月8日	ニコイ高原（宮川村）	平成4年（1992）－ 平成5年（1993）
平成6年（1994）5月25日 「いま飛騨百一景の第二回シリーズ「祭り」の下絵制作に着手^{一七}」 平成8年（1996）5月12日 「「古里賛歌飛騨点々累々」の第二シリーズ「飛騨の祭」が間もなく完成する^{一八}」	飛騨百一景 祭り	平成8年（1996）8月7日	七夕まつり（益田郡萩原町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月8日	龍神火まつり（益田郡下呂町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月9日	日本一かがり火まつり（大野郡高根村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月10日	乗鞍夏祭り（大野郡丹生川町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月13日	力持ち小太郎火まつり（益田郡小坂町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月14日	天狗まつり（大野郡朝日村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月15日	桃源郷まつり（大野郡久々野町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月16日	どぶろく祭り（大野郡白川村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月17日	飛騨荘川ふるさと祭り（大野郡荘川村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月19日	ふるさと祭り（大野郡清見村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月20日	初金毘羅宵祭（吉城郡神岡町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月22日	飛騨一宮生きびな祭り（大野郡宮村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月23日	春の高山祭（高山市）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月24日	春のふるさと祭り（吉城郡宮川村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月27日	金山まつり（益田郡金山町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月28日	古川祭・起し太鼓（吉城郡古川町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）

表1 「飛驒百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（3）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛驒市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
		平成8年（1996）8月29日	中切貴船神社祭（益田郡馬瀬村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月30日	富士神社例祭（吉城郡河合村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）8月31日	播隆祭（吉城郡上宝村）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
		平成8年（1996）9月2日	金蔵獅子（吉城郡国府町）	平成6年（1994）－ 平成8年（1996）
平成8年（1996）8月19日 「次は『川と滝』に取り組む ^五 」 平成9年（1997）8月12日 「「古里賛歌・飛驒点々累々」 の第三弾、「飛驒の水」の制作 が完成間近 ^九 」	古里賛歌 飛驒点々累々 水	平成9年（1997）8月20日	三休の滝（吉城郡国府町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月21日	白出大滝（吉城郡上宝村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月22日	白水の滝（大野郡白川村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月25日	獄谷滝（大野郡高根村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月26日	乗政の大滝（益田郡下呂町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月27日	銚子の滝（大野郡丹生川村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月28日	ニコイ大滝（吉城郡宮川村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月29日	ダング瀧（益田郡萩原町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）8月30日	小八賀川（大野郡丹生川村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月1日	女男滝（大野郡久々野町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
	古里賛歌 飛驒点々累々 水パート2	平成9年（1997）9月18日	あかがねとよの滝（益田郡小坂町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月19日	みやま滝（益田郡馬瀬村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月20日	宮川（夏）（大野郡宮村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（4）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
		平成9年（1997）9月22日	横谷峡滝（初夏）（益田郡 金山町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月24日	跡津川大滝（吉城郡神岡 町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月25日	太江川（吉城郡古川町）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月26日	三ツ滝（大野郡朝日村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月27日	大倉滝（夏）（大野郡清見 村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月29日	重箱の滝（大野郡荘川村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
		平成9年（1997）9月30日	匠の滝（吉城郡河合村）	平成8年（1996）－ 平成9年（1997）
平成9年（1997）8月21日 「同シリーズの第四作「飛騨の 民話」の取材を行った^{二三}」 平成9年（1997）11月3日 「飛騨の昔話を題材にした作 品の制作を始めた^{二〇}」	古里賛歌 飛騨点々累々 伝説	平成11年（1999）1月4日	六兵衛の鳥居（久々野町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月5日	小白川の大グモ（白川村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月7日	ネコ石（高山市）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月9日	藤蔵とカップ（清見村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月11日	へび女房（丹生川村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月12日	サル神退治（荘川村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月13日	座禅石（宮村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月14日	平湯の古いザル（上宝村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月16日	蛙合戦（神岡町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月18日	安国寺のキツネ小僧（高根 村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（5）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
		平成11年（1999）1月19日	正願坊と亀（古川町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月21日	白米城（国府町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月22日	カッパの片腕（河合村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月23日	嫁ヶ淵（ふち）（宮川村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月26日	シラサギの湯（下呂町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月28日	高坂ネコ（萩原町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月29日	キツネとちょうちん（金山町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）1月30日	又六のサル退治（馬瀬村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）2月2日	ネズミがクマを食う（朝日村）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
		平成11年（1999）2月3日	てんぐと小僧（小坂町）	平成9年（1997）－ 平成11年（1999）
平成12年（2000）1月31日 「二十年励んだはり絵の集大成と二十一世紀に進める新しい創作のため、二千一匹の猫をはり絵で描く壁画の制作に取り組んでいる。昨年秋から始め、千匹余りの猫たちが仕上がった。」			～夢魅猫（ゆめみねこ） 2001匹の鼓動～ （計18枚構成）	平成11年（1999）－ 平成12年（2000） または 平成13年（2001）
平成13年（2001）9月15日 「二千一匹の猫を二年がかりで張り絵で描いた「2001匹の鼓動」。井上さんが手掛けた作品の中でも一番大きく、昨年十				

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（6）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
月に東京で初公開した ^ハ 」				
平成15年（2003）4月2日 「飛騨百一景」シリーズが近 く完結する ^ニ 」	飛騨百一景	平成15年（2003）6月2日	飛騨国分寺（高山市総和 町）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月3日	明善寺（白川村荻町）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月4日	遊浄寺（荘川村寺河戸）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月5日	弘誓寺（清見村上小島）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月6日	千光寺（丹生川村下保）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月7日	西教寺（朝日村黒川）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月9日	大徳寺（高根村上ケ洞）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月10日	安国寺（国府町西門前）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月11日	寿楽寺（古川町太江）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月12日	祐念坊（宮川村西忍）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月13日	願徳寺（河合村羽根）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月14日	本覚寺（上宝村本郷）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月16日	大国寺（神岡町西）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月17日	長谷寺（小坂町小坂）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月18日	蓮光寺（馬瀬村黒石）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月19日	禅昌寺（萩原町中呂）	制作開始時期不明－ 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月20日	泰心寺（下呂町森）	制作開始時期不明－

表1 「飛騨百一景」推定制作時期（岐阜新聞記事より作成）（7）

岐阜新聞記事	岐阜新聞 掲載シリーズ名	岐阜新聞（夕刊）掲載日	飛騨市寄贈作品（題名、 市町村名掲載のまま）	推定制作時期
				平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月21日	東林寺（金山町岩瀬）	制作開始時期不明— 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月23日	往還寺（宮村奥）	制作開始時期不明— 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月24日	八幡神社（久々野町小屋 名）	制作開始時期不明— 平成15年（2003）
		平成15年（2003）6月25日	北アルプス（高山市）	制作開始時期不明— 平成15年（2003）

表2 「飛騨百一景」以外の寄贈作品

モチーフ	飛騨市寄贈作品	推定制作年代
風景	新徳高ロープウェイ	制作時期不明
花火	高原川の花火	制作時期不明
花火	高山市の花火	制作時期不明
猫	ネコ4匹	制作時期不明
猫	コレクション（計2枚構成）	制作時期不明
猫	ミッドナイト	制作時期不明
猫	イルミネーション	制作時期不明
猫	キャンバス	制作時期不明
猫	猫※題名不明	制作時期不明
猫	ピンクの雪	制作時期不明
猫	うたたね	制作時期不明
猫	気になる視線	制作時期不明
猫	ぬくもり	制作時期不明
猫	高級ベット	制作時期不明
猫	期待	制作時期不明
猫	指定席	制作時期不明
猫	観察	制作時期不明
猫	猫流生花	制作時期不明
猫	排除	制作時期不明
猫	お邪魔猫	制作時期不明
猫	雨後の庭	制作時期不明
猫	哲学猫	制作時期不明
猫	珍生物発見※不確定	制作時期不明
猫	ときめき※不確定	制作時期不明
猫	どこへ行くの※不確定	制作時期不明
猫	静寂※不確定	制作時期不明
猫	天高く※不確定	制作時期不明
馬	馬の絵1※林に二頭 作成途中	制作時期不明
馬	馬の絵2※林に一頭 作成途中	制作時期不明
馬	馬の絵3※秋林に三頭 作成途中	制作時期不明

【略年譜】井上あき子（1）

年	出来事
昭和 19 年（1944）	8 月 岐阜県吉城郡阿曾布村（現飛騨市神岡町）生まれ
	吉田小学校に通学
昭和 35 年（1960）	神岡中学校卒業後、岐阜県大垣市にあった紡績会社に就職
昭和 39 年（1964）	4 月 東京都町屋の菓子店勤務
昭和 43 年（1968）	6 月 27 日 父へ絵画の世界に飛び込む決意手紙を出す（※この時 24 歳になっていたなら 1969 年） 講談社フェイマスアーチスツスクールズ受講
昭和 45 年（1970）	ニューデザインセンター勤務ののちフリー ^三
昭和 49 年（1974）	北日本テレビのカメラマンと出会い、仕事を紹介されるようになる
昭和 51 年（1976）	フコク生命の表紙を担当する（～1991 年(47 歳)）
昭和 52 年（1977）	童画展
昭和 53 年（1978）	米国カリフォルニア、ファーストバンク後援でロサンゼルスで絵本「子供の世界」「猫のいる風景」の長期展を開催 ^二 （～1988 年）（切り絵個展）
昭和 55 年（1980）	テレビ番組「裸の大将放浪記」放映開始。山下清画伯の劇中画を制作 ^{一六} 。
昭和 59 年（1984）	2 月 18 日 東京創作集団日本文芸振興会第 4 回日本文芸大賞・各賞の児童文学新人賞受賞 ^四 5 月「八四、くらしの中の美術工芸展」（東京・銀座 日産ギャラリー）に切り絵 5 点出展 ^{二三} 原画展「夢魅猫」
昭和 60 年（1985）	2 月 「ねこ展」（東京・銀座）に切り絵 28 点出展 ^{二四}
昭和 61 年（1986）	3 月 宮本氏と結婚 現代児童画展入賞（張り絵作品「みっどないと」 ^一 ） 10 月「山下清を偲んで」をテーマに張り絵展（東京・渋谷 ギャラリーコーノ） ^一
昭和 64・平成元年（1989）	自然描く画入選
平成 4 年（1992）	「飛騨百一景」制作開始 ^{一四} 11 月 6 日～8 日 神岡町文化協会 井上あき子展 ^六 11 月 張り絵作品 2 点を神岡町・神岡町文化協会に寄贈 ^六 （※この頃から親子張り絵教室を毎年開催か）
平成 5 年（1993）	特別養護老人施設「たんぽぽ園」（11 月開園予定）用壁画制作中 ^{一六} （同級会「寿和会」から寄贈） 4 月 岐阜新聞夕刊「古里賛歌シリーズ」連載開始
平成 6 年（1994）	5 月 24 日～29 日 「貼絵展」（東京・渋谷 ギャラリーコーノ） ^{一七}
平成 7 年（1995）	「オフィス・井上あき子」開設（東京都練馬区東大泉） ^{二五}
平成 8 年（1996）	8 月 岐阜新聞夕刊「飛騨百一景・祭り」連載開始 ^五 「裸の大将」打ち上げパーティーに出席 ^{一六}
平成 9 年（1997）	8 月 岐阜新聞夕刊「古里賛歌 飛騨点々累々 水」連載開始 8 月 3 日～5 日 親子張り絵教室（神岡町・神岡中央公民館） ^{一七}

【略年譜】井上あき子（2）

年	出来事
平成 10 年（1998）	ドラマ使用の原画・「飛騨百一景」シリーズの個展（東京都中央区丸ノ内・大丸百貨店） 7 月 31 日～8 月 2 日 親子張り絵教室（神岡町・神岡中央公民館） ^{二八}
平成 11 年（1999）	1 月 岐阜新聞夕刊「古里賛歌 飛騨点々累々 伝説」連載開始 7 月 30 日～8 月 1 日 猫のさまざまな生態を描いた作品 20 数点を展示した「夢魅猫 PART III」（神岡町公民館）開催 ^{二九} ～夢魅猫（ゆめみねこ）2001 匹の鼓動～の制作に取り掛かる ^{三〇}
平成 12 年（2000）	10 月 ～夢魅猫（ゆめみねこ）2001 匹の鼓動～を東京で公開。 ^{八一} ギャラリー夢魅猫パート 4 仙台で井上あき子展
平成 13 年（2001）	神岡町文芸功労賞受賞 ^{三〇} 9 月 14 日～16 日 神岡中央公民館で個展 ^{八一}
平成 15 年（2003）	6 月 岐阜新聞夕刊「飛騨百一景」連載開始 （開始時期不明）現在住んでいるマンションの住民を対象に張り絵教室を開く ^{三二} 10 月 7 日～13 「貼り絵展～ふるさと賛歌～」(岐阜市橋本町、アクティブ G の TAKUMI ミュージアム) ^{三一}
平成 17 年（2005）	11 月 4・5 日 切り絵作品にコーラスとコントを織り交ぜた「昔の光 今いずこ」（神岡町・船津座）開催 ^{三一}
平成 18 年（2006）	8 月 1 日～3 日 親子張り絵教室（神岡町・神岡中央公民館） ^{三二}
平成 19 年（2007）	切り絵百枚の制作に取り組む ^{三三} 11 月 24・25 日 切り絵をスライド上映するライブ（神岡町・船津座） ^{三三}
平成 20 年（2008）	8 月 19 日 親子はり絵教室（神岡町・神岡中央公民館） ^{三四}
平成 21 年（2009）	8 月 4 日 親子はり絵教室（神岡町・神岡中央公民館） ^{三五} 10 月 23 日～29 日 「飛騨百一景」・「裸の大将放浪記」の劇中作品・「夢魅猫 2001 匹の鼓動」など 58 点を展示した作品展（飛騨市美術館） ^{三六}
平成 23 年（2011）	8 月 「親子はり絵教室」（神岡町・神岡中央公民館）10 日から完成した作品を神岡中央公民館に展示 ^{三七}
平成 24 年（2012）	7 月 21 日～8 月 19 日 作品展（飛騨市美術館） ^九
平成 30 年（2018）	4 月 28 日～7 月 16 日 飛騨市美術館 展覧会「ひだ行脚にゃんこ行脚展」

（注）井上あき子の宮本守氏作成資料・岐阜新聞記事をもとに作成した。特に彼女が請け負った仕事や、受賞歴について今後の調査で加筆が必要である。

- 一 「五十三次」張り絵で挑戦」岐阜日日新聞、一九八六年一〇月二日朝刊、一五面。
- 二 「児童文学新人賞に輝く」岐阜日日新聞、一九八四年二月三日朝刊、一一面。
- 三 井上あき子『夢魅猫（ゆめみねこ）』山と溪谷社、一九八四年一月、奥付。
- 四 「神岡町出身の井上さんに新人賞」岐阜日日新聞、一九八四年二月一九日朝刊、一八面。
- 五 「ふるさとへの思い切々」岐阜新聞、一九九六年八月一日朝刊、一一面。
- 六 「井上あき子さん張り絵作品寄贈」岐阜新聞、一九九二年二月二日朝刊、二二面。
- 七 「張り絵に親子71人熱中」岐阜新聞、一九九九年七月三〇日朝刊、二〇面。
- 八 「巨大張り絵で故郷に錦」岐阜新聞、二〇〇一年九月一五日朝刊、二二面。
- 九 「はり絵で飛騨の風景」岐阜新聞、二〇一二年七月二三日朝刊、二六面。
- 一〇 山下浩監修『山下清作品集』河出書房新社、二〇一二年八月、四頁。
- 一一 「古里 写す」貼り絵」岐阜新聞、二〇〇三年一〇月八日朝刊、一八面。
- 一二 「井上あき子貼り絵展くふるさと賛歌く」チラシ、（財）岐阜県産業文化振興事業団、二〇〇三年、裏面。
- 一三 「第4作“飛騨の民話”創作に意欲燃やす」岐阜新聞、一九九七年八月二二日朝刊、二五面。
- 一四 「張り絵作家井上さん「飛騨百一景」に挑戦」岐阜新聞、一九九二年三月一四日朝刊、八面。
- 一五 「故郷を題材に制作」岐阜新聞、一九九二年四月二日朝刊、一八面。
- 一六 「美しい飛騨張り絵で点描」岐阜新聞、一九九三年三月二六日朝刊、一八面。
- 一七 「飛騨の移ろいを幻想的なはり絵に」岐阜新聞、一九九四年五月二五日朝刊、一六面。
- 一八 「飛騨の祭」完成間近」岐阜新聞、一九九六年五月二二日朝刊、九面。
- 一九 「滝を主体に四季描く」岐阜新聞、一九九七年八月二二日朝刊、一三面。
- 二〇 「飛騨の昔話を表現」岐阜新聞、一九九七年二月三日朝刊、二二面。
- 二一 「頑張ってます 岐阜県人」岐阜新聞、二〇〇〇年一月三一日朝刊、二六面。
- 二二 「頑張ってます 岐阜県人」岐阜新聞、二〇〇三年四月二日朝刊、一九面。
- 二三 「美しい切り絵好評 東京で美術工芸展」岐阜日日新聞、一九八四年五月二四日朝刊、一一面。
- 二四 「猫好き作家集まり合同展」岐阜日日新聞、一九八五年二月二一日朝刊、一一面。
- 二五 「井上あき子さんの活動支援」岐阜新聞、一九九五年二月二五日朝刊、二五面。
- 二六 「熱いねぎらい受ける」岐阜新聞、一九九六年二月二日朝刊、

- 二二面。
- 二七 「張り絵の面白さ実感」 岐阜新聞、一九九七年八月五日朝刊、一八面。
- 二八 「親子で張り絵に親しむ」 岐阜新聞、一九九八年八月二日朝刊、二三面。
- 二九 「身近な猫の姿を張り絵に」 岐阜新聞、一九九九年七月三日朝刊、二三面。
- 三〇 「色紙に古里への思い」 岐阜新聞、二〇〇三年一〇月三日朝刊、一一面。
- 三一 「郷愁誘う切り絵ショー」 岐阜新聞、二〇〇五年一月六日朝刊、二〇面。
- 三二 「花や虫、張り絵で表現」 岐阜新聞、二〇〇六年八月三日朝刊、二四面。
- 三三 「古里描く切り絵100枚」 岐阜新聞、二〇〇七年六月一五日朝刊、二二面。
- 三四 「親子、張り絵に熱中」 岐阜新聞、二〇〇八年八月二日朝刊、二四面。
- 三五 「親子ら色紙で張り絵」 岐阜新聞、二〇〇九年八月六日朝刊、二四面。
- 三六 「目引くネコ題材の張り絵」 岐阜新聞、二〇〇九年一〇月二四日朝刊、二〇面。
- 三七 「張り絵でナスやトマト」 岐阜新聞、二〇一一年八月九日朝刊、二二面。